



京大広報

No. 631

2008.2



国際シンポジウム「大学における外国語教育の二つの挑戦：多言語教育と自律学習」
右上から鈴木孝夫氏, Claude TRUCHOT氏, Henri HOLEC氏
—関連記事 本文2542ページ—

目次

全学共通教育のキャンパスを見に来てください
高等教育研究開発推進機構長・副学長
北村隆行……2540

〈大学の動き〉
国際シンポジウム「大学における外国語教育の
二つの挑戦：多言語教育と自律学習」を開催
……2542
博士学位授与式……2543
平成20年度概算要求内示概要……2543
平成20年度入学者選抜学力試験(第2次学力検査)
の志願状況……2545
平成19年度定年退職予定教員……2546
総長主催「外国人研究者との交歓会」の開催
……2548
名誉教授称号授与式……2549

〈部局の動き〉
物質—細胞統合システム拠点(iCeMS)が看板除幕式
を挙げる……2549

生存圏研究所がヨーク大学地球惑星科学研究セン
ターと部局間学術交流協定を締結……2550
宇治キャンパスで新年互礼会を開催……2550

〈寸言〉
わが道・わが想い 谷口一郎……2551

〈随想〉
「役に立つ」防災研究の構築を求めて
名誉教授 亀田弘行……2552

〈洛書〉
メイン州滞在記 小林 優……2553

〈栄誉〉
柏原正樹数理解析研究所教授が日本学士院会員に
選ばれる……2554

〈日誌〉……2554
〈訃報〉……2555

〈お知らせ〉
平成19年度防災研究所研究発表講演会……2556

〈隔地施設の紹介〉
フィールド科学教育研究センター—舞鶴水産実験所
……2557

隔地施設 紹介



フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所 (<http://www.maizuru.marine.kais.kyoto-u.ac.jp/>)

舞鶴水産実験所はフィールド科学教育研究センター里域生態系部門に所属し、若狭湾西部の舞鶴湾奥部に位置します。京都府のほぼ北半分を流域とする由良川が、舞鶴水産実験所の西方約8kmの地点で若狭湾に注ぎ、その源流はフィールド科学教育研究センター芦生研究林に発します。フィールド科学教育研究センターの教育・研究の柱である「森里海連環学」の推進において、舞鶴水産実験所は由良川流域を舞台として中核的な役割を果たしています。



舞鶴水産実験所の全景

沿革 舞鶴水産実験所は、昭和22(1947)年4月に京都大学農学部水産学科が京都府舞鶴市長浜に設置されたことに始まります。昭和47(1972)年、水産学科が京都市内の農学部に移転したことに伴ってその施設を転用し、同年に農学部附属舞鶴水産実験所となりました。平成10(1998)年には、大学院重点化に伴い農学研究科附属舞鶴水産実験所と改称され、平成15(2003)年4月に、フィールド科学教育研究センターの発足とともに全学共同利用施設となりました。

施設と環境 敷地は約2ha、鉄筋コンクリート3階建ての「水産生物標本館」、同2階建ての「宿泊棟」、平成14(2002)年に完成した「研究棟」と「飼育棟」が主たる建物です。そのほかに、艇庫、船具庫、工作庫、飼育水濾過庫、舟艇用栈橋、海洋観測用栈橋などを有します。また、実験所内には樹齢70年を超える桜の木や小さな林もあり、花と緑に囲まれた環境です。天然の良港といわれる舞鶴湾内にあるので、年間を通じて実験所前の海域は穏やかです。しかし、舞鶴湾を出ると冬季には季節風の影響で荒れる日も多くみられます。実験所前の水温は晩冬に最も低く10℃前後、夏の終わり頃には25～28℃まで上昇します。



水産生物標本館

水産生物標本館は博物館法の指定を受け、世界中から採集された魚類標本約30万点3,000種が保管されています。これは日本でも2番目に大きいコレクションであり、魚類分類学の発展に貢献してきました。飼育棟は4つの恒温室と大型水槽室からなり、マアジ、カタクチイワシ、ヒラメ・カレイ類、マダイ、アカアマダイ、トラフグ、アユなどの仔稚魚、エビ類、アミ類、ミズクラゲ、ユウレイボヤなど、毎年10種を越える海産生物を対象に飼育実験が行われています。また、屋外の大水槽では、カタクチイワシなどの親魚を飼育し、自然産卵された卵を飼育実験に用いる

ことができます。海洋調査と実習のために、緑洋丸(定員30名, 18トン)、白浪丸(定員7名, 4.4トン)、船外機付きボート3艇などを保有しています。うち船外機付きボート1艇は、由良川河口に係船され由良川調査に利用されています。スキューバダイビング機材も整備されており、資格と潜水経験などの条件を満たす利用者は、実験所周辺で潜水調査を行うこともできます。実験所近くの水深7mの海底には、森里海連環学の一環として芦生研究林の木で製作した間伐材魚礁が配置され、たくさん



海洋調査と実習で活躍する緑洋丸

さんの魚類を観察できます。宿泊棟には、ベッド8個の宿泊室が5部屋、教員ならびに外来研究者用宿泊室が3部屋、2つの浴室等を備え、実習生、大学院生、外来研究員が長期間滞在することができます。食堂施設も設置されており、4月から10月まで昼食と夕食のサービスを受けられます。



研究・教育 魚類仔稚魚を中心とした海洋生物の生態学的研究では、我が国を代表する研究拠点として、この分野の中心的な役割を果たしてきました。とくに、魚類の資源量を決定する仔稚魚期の生き残りの機構について、フィールド調査と飼育実験により多くの研究成果を報告しています。



由良川流域での河川調査

また、由良川流域をフィールドとして、森-里-海の生態的なつながりを解明する「森里海連環学」研究を積極的に進めています。河口・沿岸域の生物生産力と生物多様性に対する森林や人間活動の影響について、多様な視点から知見が蓄積されつつあります。本実験所に所属する農学研究科里海生態保全学分野の大学院生だけでなく、農学研究科や情報学研究科の大学院生、農学部4回生、他大学の大学院生などが、研究課題を持って本実験所を利用し、飼育実験やフィールド調査を行っています。また、本実験所で開催される実習として、平成19年度には15のプログラムを実施しました。本学学生対象としては、農学部プログラムの「海洋生物科学技術論と実習」、全学共通科目の「森里海連環学実習 A」が主なものです。後者は、芦生研究林内の源流から舞鶴市内の河口まで、由良川流域の環境と生態系の変化を1週間かけて調べるといふ、他に例のないユニークな実習です。本学の実習だけでなく、他大学の実習も積極的に受け入れているほか、科学技術振興機構のサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)など、高等学校との連携プログラムにも力を入れており、平成19年度には5校の実習指導を行いました。



舞鶴市小学生自然科学教室

社会連携 舞鶴市は京都北部・若狭湾地域の中心都市であり最大の漁業基地です。行政機関、漁業者、住民などからの求めに応じて、環境の保全や地域産業の活性化のために積極的な助言を行ってきました。また、地域の催しに協力するほか、小・中・高等学校の教員・生徒に対して講義や実習を行っています。主な地域との連携活動は、京都府と共同で開催する由良川フォーラム、京都府ふるさと海づくり大会、舞鶴商工会議所まいづるフェスタ、舞鶴市ネイチャーガイド養成講座、NPO主催の自然観察講演会、学校出前講座、小中学校科学探偵士など多数あります。

年間の利用者数は5000人を超えますが、実習で混み合う夏季を除くと宿泊棟にも余裕があります。全学のさまざまな分野の研究室のゼミ合宿なども歓迎いたします。

〒625-0086

京都府舞鶴市長浜

電話：0773-62-5512 FAX：0773-62-5513

E-mail：maizuru@adm.kyoto-u.ac.jp

http://www.maizuru.marine.kais.kyoto-u.ac.jp/

職員構成

教員5人、事務職員1人、技術職員2人、時間雇用職員5人、外国人特別研究員1人、大学院生12人（うち外国人留学生4人）、学部学生2人



宿泊棟

アクセス

- ・京都駅からJR西日本を利用して特急の直行なら約1.5時間、綾部乗り換えなら約2時間、東舞鶴駅下車後タクシーで15分。
- ・京都駅から京都交通のバスで約2時間、中舞鶴バス停下車後徒歩15分。